

SignalNow 公式SNS

Facebook <https://www.facebook.com/SignalNow/>

Twitter <https://twitter.com/SignalNowEEW/>

INDEX

新年のご挨拶

- (1) 2分で読める防災コラム 第142回
「新型コロナ」最新研究について
- (2) 東日本大震災から10年 — 「定説」をくつがえした巨大地震の全貌
次の大地震はすでに「準備」されつつある
- (3) 12月の地震活動
- (4) 12月の地殻変動

新年のご挨拶

****新年あけましておめでとうございます。****

皆様お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

本年もなにとぞよろしく願い申し上げます。

****(1) 2分で読める防災コラム 第142回
「新型コロナ」最新研究について****

このコラムの連載も第142回となり、7年目に突入します。

「継続は力なり」という言葉がありますが、自分なりに感慨深いものがあります。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、例年の「新年号」は、1年間の「防災関連の年間予定」を一般行事と合わせてお届けしてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、軒並み行事やイベントが中止・延期され、流動的な状態となっています。

また、現在「2度目の緊急事態宣言」が出され、首都圏に加えて対象区域に「大阪・兵庫・京都・愛知・岐阜・福岡・栃木」の7府県が追加されています。

そこで今号は特例措置といたしまして、コロナ禍も「1つの災害」として認識し、みなさまの関心が高い「新型コロナ」に関する情報をお届けすることにします。

ご理解の上、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

さっそくですが、先日放送されました『NHK BS1 スペシャル「新型コロナ 全論文解説×世界最強の頭脳」』はご覧になられましたでしょうか。

この冬、かつてない勢いで感染が再拡大していることや現在の最新研究など、たいへん興味深い情報が満載されていました。

これらの情報は「新型コロナに関する論文」20万本以上を人工知能（AI）に学習させ、カギを握る世界の研究成果を抽出したというものです。

20万本もの論文を読んだ人類は、世界のどこにも存在しませんし、論文同士の引用・評価・関連性なども含め、質の高い情報がまとめられていました。

この番組内で提示された「AIによって解説された詳細な解析」による「重要ポイント」を列記してみますので、情報共有していただけたら幸いです。

1. 冬場の感染拡大理由について

冬場には日照時間が短くなると、体内のビタミンDが減って免疫力が弱まるため、感染リスクを高めます。

気温と湿度が下がるとウイルスの生存時間が長くなり、人体にウイルスが付着する可能性が高まります。

例えば「プラスチックに付着したウイルス」で比べると、夏場は「2時間」に対し、冬場は「15時間」にまで伸びるのです。

昨年冬からの1年間の新規感染者数を詳細に分析した研究では、

- (1) 気温が1度下がると、新規感染者数は50%以上増加する
- (2) 湿度が1%下がるだけで、新規感染者数は12%以上増加する

ということがわかりました。

2. 死亡者数とネアンデルタール人遺伝子について

新型コロナで重症化した人たちの多くが、ネアンデルタール人から受け継いだと見られる遺伝子を持っていたことがわかりました。

ネアンデルタール人遺伝子を持つ人は、重症化リスクが（持っていない人に比べて）最大3倍にもなることがわかりました。

およそ4万年前に絶滅したネアンデルタール人の遺伝子は、インドなどの南アジアでは「2人に1人」が持ち、ヨーロッパでは「6人に1人」が持つのに対し、日本などの東アジアでは持っている人がほとんどいません。

3. 交差免疫

ヒトは、あるウイルスに感染すると、免疫細胞によって抗体が作られ、その効果は一定期間保たれます。

この免疫システムを利用するのが予防接種であり、ワクチンです。

この時「類似のウイルス」が侵入した際にも、ある程度の効果は発揮でき、専用の抗体ではなくても、類似ウイルスの活動を阻害するのに役立ちます。

これを「交差免疫」と言い、例えばインフルエンザの予防接種でも、別の「型」が流行したとしても、予防接種をしてないよりは重症化を防げるというのはこのためです。

普通の風邪を引き起こす「季節性コロナ」は、日本を含めた東アジア地域で繰り返し流行しているため、東アジア人の多くがこの交差免疫を持っています。

ボストン大学で、過去5年間に「季節性コロナ」に感染歴があるかどうかとの相関関係を調べたところ、新型コロナ患者のうち、

- (1) 感染なし → 3割が重症化
- (2) 感染あり → 重症化は5%のみ

となることがわかりました。

東京大学医学部附属病院検査部の調査によると、日本人の75%がコロナに対する交差免疫を持つことが判明しました。

4. 微量感染

日本を始めとする「マスク着用」が徹底している国では、感染者と出会った際に、マスク越しに「微量に感染する」こととなります。

新型コロナウイルスがごく微量に体内に侵入することで、発病まではせずに体内の免疫システムで処理することができ、新型コロナウイルスに対抗できる「新たな抗体」が作られます。

こうして「無症状感染者」となり、新型コロナの予防接種を「微量に注射した」状態に近いものとなります。

日々の活動の中で「マスク越しに微量に感染する」ことを繰り返していくと、体内の抗体量が十分な量に達し、新型コロナに対する「免疫力」を持てるようになります。

つまり、「マスクをする」というのは、微量感染によって「免疫を獲得するのにも役立つ」ことがわかりました。

5. 波長 222nm の紫外線

紫外線はこれまで、病院でのスリッパ殺菌など、殺菌作用のある光線として利用されてきました。

ニューヨークの地下鉄では、車庫に戻ってきた車両の内部を深夜、紫外線で丸ごと消毒する試みも始まっています。

ただし、通常の波長の紫外線は人体には有害とされ、シミや皮膚癌の原因ともされます。

そこで、紫外線の波長をさまざまに変えて調べたところ、222nm（ナノメートル）の波長で

株式会社小林洋行コミュニケーションズ SignalNow デスク
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-15-7
<https://kobayashiyoko-com.jp/sn/>

Copyright 2021 Strategy Corporation.